

## LMSのコースを運用するとき役立つTips

今回のニューズレターでは、授業においてLMSのコースを運用する際に役立つ、ちょっとしたTipsをいくつかご紹介いたします。

## ● 自分でコースに教員・学生を登録する

教員は、担当している授業のコースに、教員や学生を自分自身で登録することができます。窓口にご依頼いただく必要もなく、短時間でできます。詳しい操作の方法は、LMSサポートサイト内「自分でコースに学生を登録するには<sup>(\*)</sup>」をご参照ください。

なお、このコース登録では「ロール」の設定が必要です。一緒に授業を担当するのか、教材を閲覧させたいだけなのか等、下記を参考に、登録の目的に合わせて設定してください。ロールについても、「自分でコースに学生を登録するには」内に詳細情報があります。

コースでの ロール名 (権限)	各機能の利用可否				備考
	教材 閲覧	教材 作成	成績 管理	ユーザ 管理	
学生	○	×	×	×	
教員	○	○	○	○	一覧に教員として氏名表示
教員副	○	○	○	○	一覧に氏名の表示なし
教材作成 採点者	○	○	○	×	旧TA権限

## ● 課題進捗状況を学生に知らせる

LMSの機能「公開条件」を使用すると、テストの成績に応じて教材を表示するといったことが可能です。対象は教材に限りませんので、公開条件はさまざまな応用が可能です。

LMSではたとえば、各授業回のトピックの理解を確認するテストを、満点を取るまで学生に何回でも受験させるといったことが可能です。合格を示す画像を貼った項目を作成し、テストの成績が100%になったら表示する公開条件を設定すれば、学生が満点を取ると「合格証」が表示される状態になります。同じ要領

(\*) LMSサポートサイト (<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>) マニュアル内の教員向けマニュアル「LMS利用開始設定関連」に掲載。タイトルにはありませんが、教員を登録する操作も説明されています。

(\*\*) テストの成績による公開条件が設定されたコンテンツは、そのテストを受験していない学生には表示されません。この例の場合も、未受験の学生には何も表示されません。

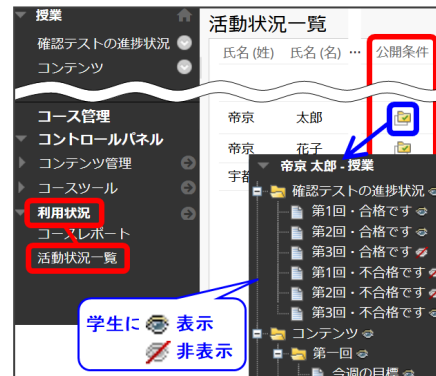
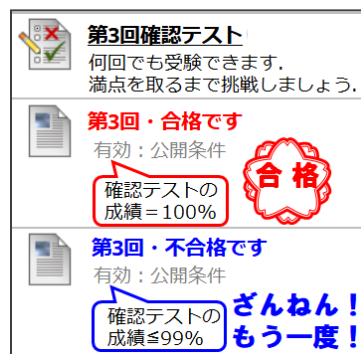
(\*\*) LMSホーム画面中央にあるフォルダ「every year」下の「教職員用LMS操作講習コース」内、操作の説明は「LMS操作ビデオ集」に、活用のヒントは「LMS活用アイデア集」に解説ビデオがあります。

で、成績が99%以下であれば再受験を促す項目を表示することもできます<sup>(\*\*)</sup>。各テストで満点を取ったか否かが明示されるため、満点を取っていないテストの受験を見落とす学生を減らす効果が期待できます。また、このような合格証は大学生にとっても嬉しいようで、喜ぶ学生も見受けられます。

この方法を利用すると、各課題が完了したか未完了かを示す一覧など、課題の進捗状況を個別に学生に知らせるコンテンツを作成できます。公開条件についての詳しい情報は、「教職員用LMS操作講習コース<sup>(\*\*)</sup>」をご参照ください。

## ● 公開条件から学生の課題進捗状況を知る

コースメニューの「利用状況」の下にある「活動状況一覧」を開き、各学生の「公開条件」にあるアイコンをクリックすると、コース内のコンテンツのうち、その学生に今何が表示されており、何が表示されていないかを確認することができます。先述のように成績を用いて公開条件を設定した項目があれば、ある学生の課題の進捗状況を一目で確認することも可能になります。(右図の例であれば、第1・2回確認テストで満点を獲得しており、第3回は受験したものの、まだ満点は獲得していないことがわかります。)



## LMS活用事例レポート

## 化学系授業での活用例



今回は、薬学部薬学科の忍足鉄太先生にお話を伺います。

薬学部では、講義資料配信や小テスト実施のシステムとしてTYLASを利用してきましたが、2019年度入学生からLMSの利用を開始しました。現在は4年生以下がLMSを利用し、2024年度に移行が完了いたします。

LT どのようにLMSを使われていますか。

**忍足先生** LMSを利用して、授業終わり5分くらいの時間を使ってその日の授業の理解度を図るための小テストをやるようにしています。LMSを使うと小テストの受験期間が指定できるので、授業終了の少し前から開始し、その後はずっと受験できるように設定しています。小テストは10問くらいの正誤問題です。自動採点もできますし、18時以降にはフィードバックを表示するようにしました。とても便利に使っています。

LT LMSに小テストの公開日時や採点を任せてしまうことができるということですね。

**忍足先生** そうです。また、担当する化学は苦手とする学生が多い科目なので、勉強してもらうにはどうしたら良いかということ考えた結果、6年生に対して化学の問題を薬剤師国家試験の250日前から毎朝6時頃に1問公開して学生が自分で取り組めるようにしています。解説まで読んでも15分から20分くらいの時間でできる内容です。現在は、手動で公開していますが、2年後には公開時間を設定して、自動で公開できるようになるので楽しみです。

LT 大学までの電車の中でもできそうですね。問題を公開するタイミングも学生が取り組みやすい時間に合わせる工夫をされているんですね。

**忍足先生** また、LMSのテストであれば、締切や学生全員の提出を待たなくても、その時点での採点結果や

学生の解答から理解状況を確認することができるので、翌日配信する小テストの解説資料作成の参考にしています。

LT テスト以外のツールではほかにありますか。

**忍足先生** 授業では、分子模型を使って組み立てて動かすということをやります。以前は、書画カメラを使ってその手順を説明していたのですが、代わりにCollaborateを使って、PCのカメラの前で動かして見せながら説明したところ、学生から分かりやすいと評判が良かったです。

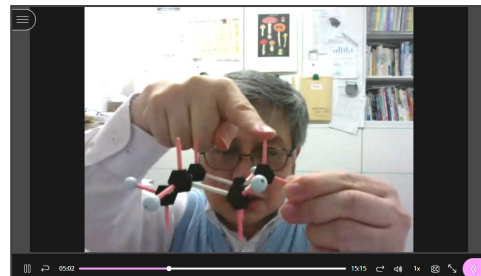


図 分子模型のCollaborateを利用した説明の

LT Collaborateであれば学生は自分のPCやスマホの画面でも見ることができて、細部まで確認しやすいのかもしれないですね。オンラインの学会などで発表を聴講している際に、小さな文字でもスライドが鮮明なので問題なく読むことができるという経験は私達もありますね。

**忍足先生** これはCollaborateでオンライン授業をしていて感じたことなのですが、対面だと質問があまりでないのに、Collaborateだと顔が出ないからなのか意外と質問がでるように思います。これまでは、試験前などには授業が終わってから質問を受けていたのですが、今度は、予め時間を設けてCollaborateでやってみようと思っています。

LT 対面での授業では、あまり質問しない学生がオンラインでは積極的に質問するようになったという報告を私も聞いたことがあります。面白いですね。

**忍足先生** 2022年度は対面での授業になりましたので、Collaborateでオンライン授業をすることはなくなりましたが、授業を配信する目的以外でも色んな使い方ができそうです。

## LMS Tips

- ◆ コースでグループワークを実施する
- ◆ 授業回に必要な成績管理の列だけを表示する

※上記のTipsをクリックすると詳細が開きます

Tipsは帝京大学LMSサポートサイトからご覧いただけます。（<http://www.LT-Lab.teikyo-u.ac.jp/lms-ss/>）

## 編集後記

あっという間に梅雨が明け、連日の猛暑・真夏日・ゲリラ豪雨、今年の気候はおかしいですね。例年8月に届く大量の夏野菜が、6月末から届き、ちょっとビックリ!!でも、トマトは届かない。やっぱり水不足？

新型コロナ第7波で感染者が急に増えました。自分自身夏休み前に感染対策を再度徹底したいです。（渡部）

